

■児童・生徒の学力の状況

○入学時より既に「学力の二極化」の傾向を示している。特に、数学や英語の積み上げ型の教科は、特にこの傾向が強い。
 ○理由を説明したり、条件に合った作文をしたりするなどの、記述することに課題がみられる。
 ○不登校気味の生徒、外国籍の生徒、特別な支援が必要な生徒の割合が高くなってきており、これまでの指導だけでは理解が不十分である。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○個別最適な学びと協働的な学びを充実させ、そのためのツールとしてICT機器を活用した支援を推進すること。
 ○複数の文章や図・グラフを比較・関連付けて読むことや、他者とのやりとりを通して自分の考えを再構築すること等を計画的に配置した単元を構想すること。
 ○自己調整型の学習に進んで取り組むこと。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

○「主体的・対話的で深い学び」につながる「個別最適な学び」と「協働的な学び」を全ての教科で展開する。
 ○板橋区授業スタンダードの推進と読み解く力の育成及び板橋区授業スタンダードSを積極的に試行する。
 ○生徒の思考を促すため、教師の意図により、考えを焦点化したり、引き出したりする発問、あるいは、ゆさぶりや問い返しを用いて発問の質を高め、子どもの思考を促す。
 ○ICT機器を使って工夫しながら資料として視覚的に提示することによって、論理的・合理的・効果的に追究し、生徒の「思考を深める」。また、多様に考えを作り出し、「思考を広げる」よう活用。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードSの積極的な取組	視点2 読み解く力の育成	視点3 総合的な学習の時間との連携
○子どもたちの自己選択、自己決定、自己調整を取り入れた授業をめざして各教科の特性や単元・題材のねらい、児童・生徒の実態に応じて、教師が選択する。	○Input-Think-Outputの授業展開において、目的に応じてICTを活用しながら、言語活動で知識や情報をThinkすることを通してOutputする力を高める授業づくりに努める。	○総合的な学習の時間で身に付けた資質や能力、態度等を各教科の学習において生かしていけるよう、各教科等の指導についても見直し、指導の改善を図る。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	個別最適な学び・ 協働的な学びの実現	誰もが希望する質の高い教育を受けられる環境の整備
○総合的な学習の時間について、環境教育におけるSDGs教育の視点を踏まえ、学びのエリアの共通項などを探る研修会を実施し、カリキュラム・マネジメントの推進を図り、質的改善をめざす。 ○学びのエリア研修会で、各校の総合的な学習の時間の年間指導計画をつなげる。 ○郷土愛の取組について、指導の共有化を図る。	○生徒が自己調整しながら学習を進めることができるようICTを活用し、一人一人に応じた学習活動や学習課題の提供に努める。 ○一人一人の学習進捗状況を可視化し、反応や考え方を即時に把握しながら、双方向で授業を進める。 ○これまでの実践に加えて、さらにICTを最大限に活用していくために、教員のICT活用指導力を高める。	○様々な特徴をもった生徒達に対して、よりきめ細かな指導を行う。 ○一人一台端末の環境整備が進み、理解度や学習の進度に応じた学びを提供するとともに、誰一人取り残さず、多様な学びの場での指導を行う。 ○一人一人の違いや多様性を認め合える学級経営を推進する。